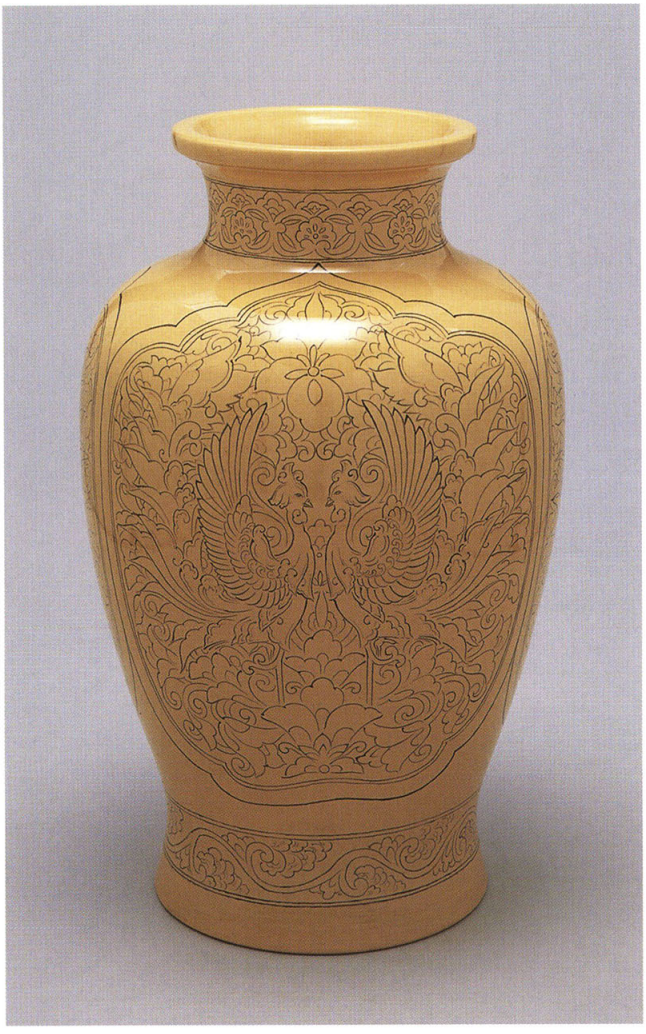

21　**（製作）丸三陶器商会、（図案・絵付）得能興州**

《黄釉向鳳凰文花瓶》　一対

昭和三年（一九二八）

陶磁

各高六六・五　径四一・〇

器面全体を覆う鮮やかな黄釉が特徴的な布志名焼の花瓶。布志名焼は島根県の宍道湖南岸の布志名で江戸時代中期より始められ、山陰における一大窯業地として近隣の窯場に大きな影響を与えた。松江藩七代藩主松平不昧の趣向を受けた高級茶陶の時代を経て、明治期以降は会社組織となって輸出品製作に取り組み、その後は民芸運動の影響を受けた作風に転換するなど、時代の変化に応ずる柔軟な姿勢をみせた。

昭和三年（一九二八）の大礼に際して島根県より献上された、布志名焼でも最大級の大きさを誇る本作品は、成形、図案、絵付けなど分業体制で作られていた時代の最後の優品である。製作を丸三陶器会社、図案と絵付けを得能興州が担当した。丸三陶器会社は明治初期に布志名で母体が組織された黄陶社や船木合名会社を引継ぎ大正四年（一九一五）より社名を丸三陶器会社とし、食器、花瓶、茶器などを製産して全国へ販路を広げた。得能興州は地元の松江出身、出雲陶器組合製陶所の画工生となり陶画の指導を受け、布志名焼の図案家、絵付け師として活動した。透明釉の下に黒一色の釉下彩で描かれた向かい合う鳳凰を中心とした典雅な図様は、興州が心血を注いで描いたもので、本作品の完成以後、再び筆を執ることはなかったという。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan